

活動紹介

NPO 法人千葉県森林インストラクター会

講座名	緑を楽しむ講座 柏「手賀沼周辺を歩く～美しい日本の歩きたくなる道500選」		
開催日時	2022年4月24日（日）10時00分～15時00分		
開催場所	我孫子市、手賀沼周辺	一般参加者	27名

活動概要

緑を楽しむ講座・柏の2022年度前期第1回目の講座として、「手賀沼周辺を歩く～美しい日本の歩きたくなる道500選～」を開催した。今回の主要テーマは我孫子を代表する文化である「白樺派」文人ゆかりの地を訪ね、「ハケの道」を巡りながら、古き良き時代の手賀沼を探ることである。

我孫子駅をスタートし、旧水戸街道沿いで我孫子宿の説明後、下総台地上の「船戸の森」に向かう。ここではテンナンショウ属のウラシマソウ、ムサシアブミ、マムシグサ等が見られた。休憩を兼ね手賀沼の創成経緯について解説。

続いて武者小路実篤邸跡に向かう。ここは通常は非公開であるが、今回特別許可を得て邸内の見学ができた。庭園内にて実篤が手賀沼に転居した経緯、当時のエピソードを解説後、園内を自由に散策していただく。周辺は江戸時代に燃料材確保のため、アカマツが大量に植林されたが、その後の燃料革命による放置、松枯れ病等により現在はほとんど残っていない。

続いて下総台地斜面林沿いのハケの道を手賀沼公園に向けて歩く。途中斜面林沿いの湧水や文人たちがいた当時の手賀沼の様子等を解説。

手賀沼公園にて昼食休憩後、天神坂より柳宗悦邸跡（三樹荘）を訪問、三樹荘の名前の由来となった庭園内の3本のスダジイやケヤキの巨木を観察。隣の嘉納治五郎邸跡は現在公園となっており、こちらで白樺派文人の手賀沼集合の経緯をまとめて解説。きっかけは嘉納治五郎が手賀沼に別荘を建て、甥の柳宗悦を手賀沼に呼んだことによること、白樺派文人たちにとって手賀沼の存在はその後の彼らの活躍の大きな原動力となったこと等を解説。一旦ここで解散とし、希望者のみ引き続き志賀直哉邸跡、「世界一小さな蝶々園・あおむしくんのおうち」、村川別荘を案内。十数名が希望した。

志賀直哉邸見学後、あおむしくんのおうちに向かう。こちらは個人宅であるが、大量のあおむしを育て、軒先で蝶々が蛹より羽化する様子を公開しており、参加者には大変好評であった。最後に我孫子宿本陣にあった離れが移築されている村川別荘を見学し、バスにて我孫子駅に戻った。

昼食時より小雨が降りだしたものの、春の1日、手賀沼での緑と文学散歩が楽しめた。



F I C 講師

海野、田中、板倉、風見、羽根、高橋